

日本にはAEDの設置に関する法律やルールは存在せず、ほとんどの地域で正確なAEDの設置情報は把握できていません。そこで、設置情報を広く共有するため、参加型のAEDマップがあります。「AED N@V I」といい、自分たちの周りにおけるAEDの情報を共有することができアプリです。設置情報をみんなで活用して、より多くの救命に繋がしましょう。



AED N@V Iの詳細はコチラ

みんなで作るAEDマップ

総務省消防庁によると、一昨年(2022年)、一般の人が心臓が原因の心肺機能の停止を目撃し、AEDを使用した人の1か月後の生存率は50.3%となっていて、使用しなかった場合の8.5%のおよそ6倍となっています。ただちにAEDを使用するためには普段から、設置場所を確認しておくことが大切です。

AEDの使用で生存率は6倍に

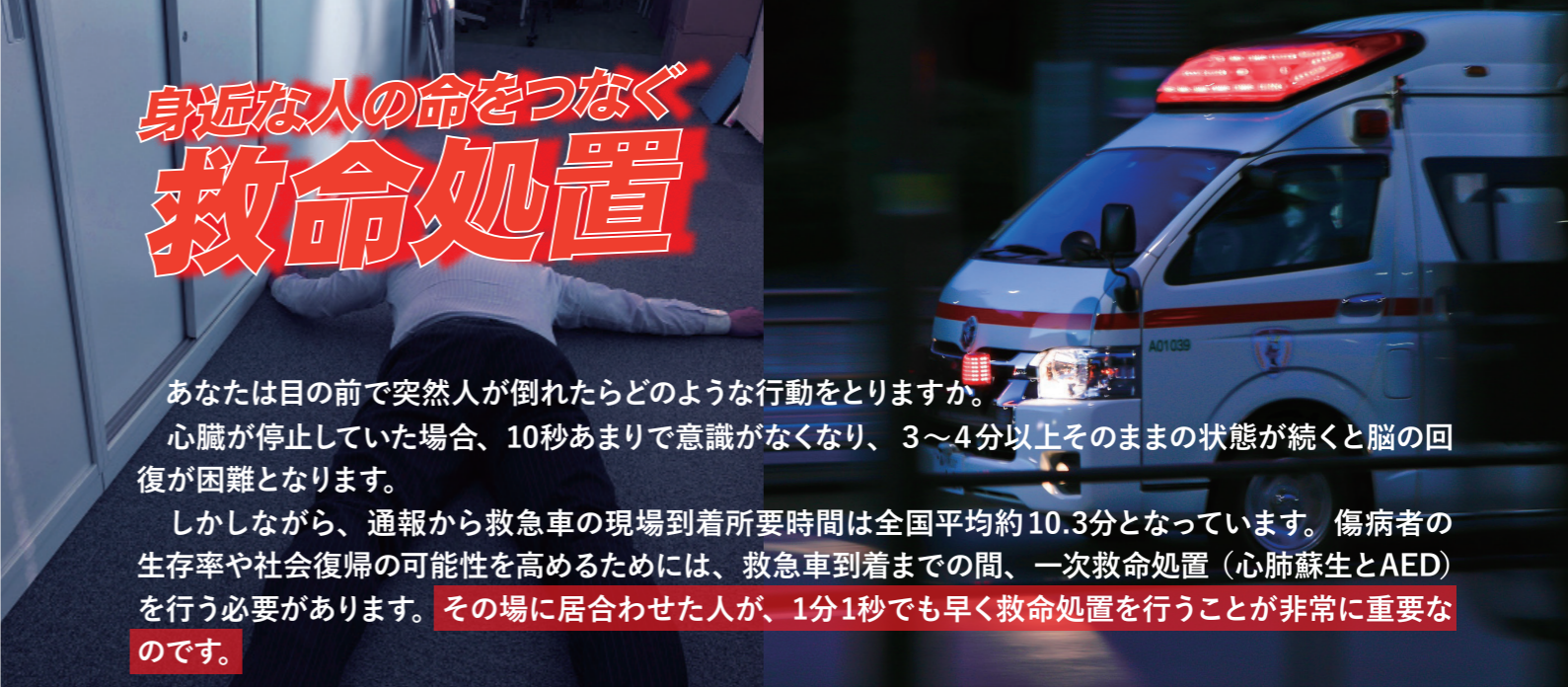
救急車を呼ぶか迷ったら

「家族の様子がなんとなくおかしいけど、救急車呼んだ方が良いのかな」「具合が悪いけど病院に行った方がいいのかな」このような救急車を呼ぶか迷った場合は、無料電話相談窓口「#7119」に電話しましょう。電話口では看護師や医師、トレーニングを受けた相談員が対応し、症状を把握して緊急性や救急車要請の必要性についてアドバイスをしてくれます。

お子さんの具合が悪い時

小さいお子さんをお持ちの保護者の方が休日・夜間の急な子どもか、病院の診療を受けたらよいのか、病棟の診療を受けたらよいのかなど迷った時に、小児科医師・看護師へ電話による相談ができる「子ども医療でんわ相談事業」があります。

全国同一の短縮番号「#8000」をプッシュすることで小児科医師・看護師からアドバイスを受けることができます。



身近な人の命をつなぐ救命処置

あなたは目の前で突然人が倒れたらどのような行動をとりますか。心臓が停止していた場合、10秒あまりで意識がなくなり、3~4分以上そのままの状態が続くと脳の回復が困難となります。

しかしながら、通報から救急車の現場到着所要時間は全国平均約10.3分となっています。傷病者の生存率や社会復帰の可能性を高めるためには、救急車到着までの間、一次救命処置(心肺蘇生とAED)を行う必要があります。その場に居合わせた人が、1分1秒でも早く救命処置を行うことが非常に重要なのです。

救急車が到着するまでの一次救命処置の手順

- 1 安全確認** 傷病者に近寄る前に、交通状況などの危険がないか、周囲の安全を確認する。
- 2 反応確認** 反応あり → 具合を尋ねる ※様子がおかしい普段通り出ない場合は119番通報
反応なし
- 3 通報** 大声で応援を呼び、119番通報とAEDを依頼。通信指令員の指示に従う。 ※人がいない場合は、自身で119番通報、近くにAEDがあれば取りに行く。
- 4 呼吸の確認** 10秒程度、胸とお腹は動いているか、普段どおり呼吸をしているかを確認する。
あり → 様子を見ながら、応援・救急隊を待つ
なし・判断に迷う(普段どおりの呼吸をしていない)
- 5 胸骨圧迫(技術と意思があれば人工呼吸) 30:2の比で実施** ただちに胸骨圧迫を開始する。押す場所の目安は胸の真ん中。胸が約5cm沈むまで体重をかけて押す。(小児は胸の厚さの約1/3) 速さは1分間に100~120回で絶え間なく。
- 6 AED到着** 電源を入れると音声で指示が流れるので、指示に従い電極パッドを素肌に直接貼る。汗や雨で濡れている場合は、必ず拭き取ってからパッドを貼る。
- 7 AED(心電図の解析)** 自動で解析が始まるため、解析中は傷病者に触れないようにする。
- 8 AED(電気ショック)** 「ショックボタンを押してください」といった音声の流れたら、傷病者に誰も触れていないことを確認し、ショックボタンを押す。
電気ショック必要あり

救急車が到着するまで5~8の手順を繰り返す

電気ショック必要なし

地 第17回南会津救急フェア 域から繋げよう、命のバトン

9月7日、南会津地方広域市町村圏組合消防本部の主催による救急フェアが開催されました。

フェアでは、救命処置について学ぶ「救命講習会」に加えて、福島県南会津保健福祉事務所および福島県立南会津病院の医師、看護師による講演が行われました。参加した80名の方々は、真剣に取り組むとともに、講演に耳を傾けていました。また、当日は、地震体験や消火体験などができるブースも設けられ、多くの方が訪れていました。



普通救命講習を受ける参加者の方々

